

# 奄美豪雨災害 支援は被災者の立場で 赤嶺政賢衆院議員が要求



日本共産党の赤嶺政賢議員は11月1日の衆院予算委員会で、鹿児島県奄美大島で起きた豪雨災害の被災者への支援について、被災者の立場に立った万全な対応を政府に求めました。質問の内容を紹介します。

新たな支援策の検討も含め、万全な対応を

●赤嶺議員 日本共産党の赤嶺政賢です。

質問の冒頭に、私は、今回の奄美豪雨災害で亡くなられた三名の方々の御冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

私は、十月の二十五日から二十六日にかけて、奄美の現地に入り、被害に遭われた住民の方々と懇談をしてまいりました。



そこで、政府に求めたいことは、一つは、住宅の修理や土砂の除去など、災害救助法を全面的に活用して、法に基づく救助を直ちに実施すること、そして取り組みを強めることであります。

二つ目は、激流とおぼれるほどの水位にさらされた被災住宅は、見た目には大丈夫に見えても、壁や床、天井などがだめになり、悪

臭で大幅な改修や建て直しが必要になる場合があります。住宅の被害認定は、住宅としての機能、つまり、住み続ける上でその機能がどの程度失われているかを基準にすべきであり、現場でそのことが徹底されるようにすることが必要だと考えます。



三つ目は、被災者の中で高齢者の占める割合が多く、



住宅の修理や建てかえはもちろん、当面の生活に最低限必要な家財の買いかえも、年金生活者にとっては負担が重過ぎます。

新たな支援策の検討も含め、政府に万全な対応を求めるものでありますが、大臣の認識を伺います。

○松本 国務大臣 お答えいたします。

このたびの奄美地方の豪雨に際しましては、今先生もおっしゃられましたように、三名の方々が亡くなられました。私も御冥福をお祈りし、御遺族の皆さんに、本当に悲しみに暮れておられると思いますけれども、お悔やみを申し上げたいと思います。また、被災された方々にもお見舞いを申し上げます。上げたいというふうに思っております。

私も、先生がいち早く現地に行かれて、しっかりと皆さんの意見を聞いておられることを聞いておりまして、心強く思っております。まず、状況から御報告をしたいと思いますけれども、現在までに判明したところでは、亡くなられた方三名、負傷者二名、行方不明者は

今はございません。住宅の全壊が七棟で、半壊四棟、床上浸水六百十三棟、床下浸水八百八十九棟、土砂災害等が今四十三件あっております。

政府としても、十月の二十三日に東副大臣に現地に赴いていただいて、状況を把握して、私も報告を受けてまいりました。私自身も、二十日の夜のすさまじいときに防災の部屋に参りまして、鹿児島県に電話をしまして、いろいろなことでお役に立てないかということも言ってきたところであります。二十一日の日に関係省

庁の災害対策会議を開き、今現在四回にわたってさまざまな、今できること、そして状況把握に努めているところであります。

私も一昨日、奄美に参りまして、状況を見てまいりました。十日たって行きましたけれども、本当に被害のすさまじさをこの目で見て、しっかりと政府としても対応していかなければならぬというふうに思っています。早く家に帰りたいという高齢者の方々もおられました。

そういう意味では、激甚災害の、きょう中井委員長もおられますけれども、しっかりと後を受けて、これから何ができるか、まだすべてが見えておりませんので、どういうことができるか、まだまだこれからのことだと思えます。また、被災者生活再建支援法等々もしっかり役に立つように努力をしていきたいと思えますし、

関係省庁とこれからも連絡をとり合って、政府一丸となって頑張っていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 国は自治体任せにしない情報収集、連絡体制を



●赤嶺議員 先ほど三点、具体的な要望を申し上げた

んですが、ぜひ早急にその対処をとっていただきたい。それで、今度奄美に行きまして非常にびっくりしたのは、今回の災害の教訓でもありますが、通信手段が寸断をされて、孤立集落の被害状況の把握に時間がかかったという問題があります。国は孤立集落への対策を検討してきたわけですが、今までどんな手だてをとってきたのか、そして、今後、自治体任せにしないで、さまざまな事態を想定した情報収集、連絡の体制を責任を持って確保すべきではないかと思いますが、大臣、いかがですか。

○松本内閣大臣 答えたいします。

先ほど言われました、今

回の豪雨の課題としては孤立集落対策、あるいは老健施設であるとかグループホームであるとか、去年もありましたし、ことしもそこに大きな被害がありました。亡くなられた方もおられました。

そういう意味では、そういった災害弱者のこともしっかりとこれからの課題としてやっていかなければなりませんし、通信手段も、衛星と結ぶ通信があるわけですから、中越地震のときからの教訓で、孤立した集落にどうやって通信が復活するようにできるかというところもやっておりますけれども、なかなかそのところが予算の関係等もありまして、さまざまこれから今おっしゃったことに対し

ては手だてを講じていく覚悟でありますので、よろしくお願いいたします。

●赤嶺議員 災害の被害は予算と抱き合わせに論じられる性格のものではないと思います。しっかりした対処を求めるものであります。

